できるまで

公園計画検討会

雑司が谷公園の計画づくりは、公園計画検討会が白紙の状態から検討を行いました。敷地の特徴を把握し、先進事例の見学を行いながら、公園の計画、施設の計画、民間活力の利用、維持管理の方法など、７年にわたって検討を行いました。

公園づくりの目標

検討会では次の目標を定めて計画案を提案しました。

①災害時にも役立つ公園
②地域のコミュニティの拠点となる公園
③雑司が谷らしさのある公園
④平常時、災害時に地域の拠点となる施設

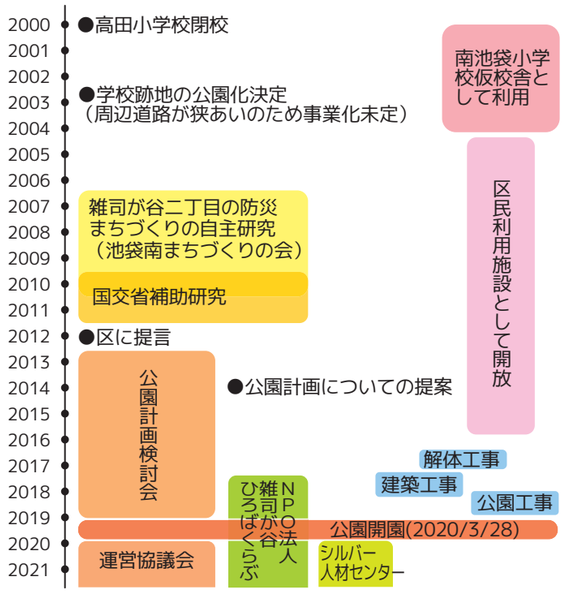
雑司が谷ひろばくらぶ

検討会による維持管理の検討で、公園の管理も地元住民が参加できるようにしたいとの意識が高まりました。そこで、検討会の有志がＮＰＯ法人雑司が谷ひろばくらぶを組織しました。ひろばくらぶでは、雑司が谷公園の運営・管理を行うと共に、地区内の小公園を核としたまちづくりなど、多彩な活動を行っています。

運営協議会

運営協議会は、地域の町会・商店会、大学、ＮＰＯ法人によって組織されており、雑司が谷公園の運営の中心になっています。

雑司が谷公園年表



zoshigaya park

雑司が谷公園

雑司が谷公園
所在地：東京都豊島区雑司が谷２－11，12
面積：8653.75㎡
開園：昭和61年４月１日（旧雑司が谷公園）
改修後開園：令和２年３月28日

丘の上テラス
住所：〒171-0032　東京都豊島区雑司が谷2-12-1
構造：鉄筋コンクリート造及び木造（準耐火造）
階数：地下１階・地上１階
建築面積：469.98㎡
延床面積：499.24㎡
各階床面積：地下1階157.45㎡/1階336.10㎡/PH階5.69㎡
開館：令和２年３月28日

連絡先
Ｅメール：info@zoshigaya.club（雑司が谷ひろばくらぶ）
ＵＲＬ：https://zoshigaya.club/zoshigayapark.html

アクセス
東京メトロ副都心線　雑司が谷駅（出口１・３）から300m
都電荒川線　鬼子母神前駅から200m

雑司が谷公園リーフレット　2021/5発行　design:ecoline

雑司が谷公園運営協議会
特定非営利活動法人雑司が谷ひろばくらぶ

雑司が谷公園が

雑司が谷公園の敷地

雑司が谷公園の敷地には高田小学校がありました。高田小学校は明治11年（1878年）３月25日に開校し123年の歴史を持った学校でした。多くの児童の学びの場であると共に地域活動や防災の拠点としても重要な施設でした。

平成13年（2001年）に、雑司が谷小学校、日出小学校と統合して南池袋小学校が開校し、学校の役割を終えました。

公園整備の課題

学校跡地は公園にすることが決められましたが、周辺の道路が狭あいで工事が難しいため、しばらく区民利用施設として校舎の一部と校庭が開放されていました。

木造密集市街地の安全性向上のために

雑司が谷・南池袋地区は木造住宅が密集する災害危険度の高い地区です。地区では様々な防災事業が行われてきました。しかし災害危険度がもっとも高い雑司が谷二丁目ではまちづくり事業が行われず、しかもその間に救援センターである学校がなくなるなど、防災的には多くの課題がありました。そこで、長年防災まちづくりに取り組んできた池袋南まちづくりの会（現在は雑司が谷・南池袋まちづくりの会に改称）が自主的に雑司が谷二丁目の防災まちづくりの研究を行い、その成果を豊島区に提言しました。

提言を受けて

豊島区ではまちづくりの会からの提言を受けて、高田小学校跡地を公園とするために公園計画検討会をつくり検討を開始しました。また。公園と必要最低限の道路整備を核とした防災まちづくりに取り組むことにし、居住環境総合整備事業を行っています。

雑司が谷公園のビフォア・アフター

高田小学校の校舎と校庭

広々したはらっぱとボールひろば

北東の狭あい道路と老朽化した擁壁

敷地内通路の整備と建物のセットバック

見通しの悪い南側の道

敷地内通路の整備と見通しの確保

雑司が谷公園

みんなで守り育てる公園

雑司が谷公園は地域の皆さんが計画づくりから参加し、完成後も守り育てる公園です。この公園でこんなことをしたいという思いを受け止め、実現することをめざし作り続ける公園です。また、災害時にも役立つ公園となります。

ボールひろば

ネットで囲まれたボール遊びができるひろばです。一般貸出しの他、子どもや家族づれが遊べる時間もあります。

はらっぱ

ボールひろばを取り囲む芝生のはらっぱです。ボールひろばのネットを開けば一体のひろばとなります。

水遊びひろば

夏には大人気となる噴水のあるひろばです。舗装から水が飛び出します。夏以外には小さな円形ひろばとなります。

フィットネスひろば

高齢者も親しめる健康遊具を設置しています。

どんぐりの林

小さな山となっています。変化にとんだ遊びができます。植えられているのはどんぐりの木です。

いのちの森

苗木をたくさんに植えて、自然の推移に任せ、将来は森になる木を育てます。

こどもひろば

幼児向けのひろばです。ローラースライダーなどの遊具に加えて年齢や身体能力に関係なく誰でも遊べるインクルーシブ遊具を備えています。

防災設備

かまどベンチや深井戸、ソーラー照明などが設置され、いざという時に備えます。

公園平面図

災害時の補助救援センター

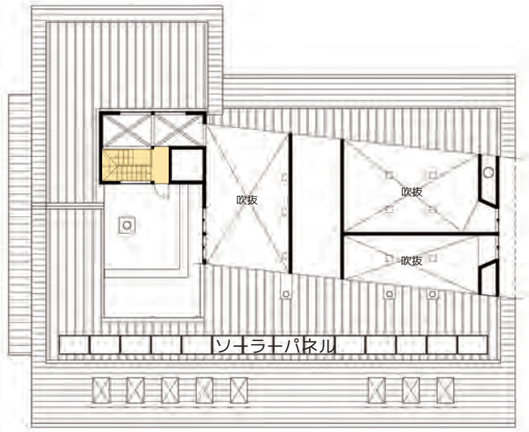
雑司が谷公園は、南池袋小学校･千登世橋中学校などの救援センターを補完する補助救援センターと位置づけられます。救援センターには区の職員がかけつけて運営され、様々な支援が届きます。
それに対して補助救援センターは住民が運営する場になります。救援センターと連携しながら、より身近な避難や支援を行う体制をつくることになります。

丘の上テラスも災害時には対策本部や避難弱者向けの避難所として利用することが期待されます。

丘の上テラス

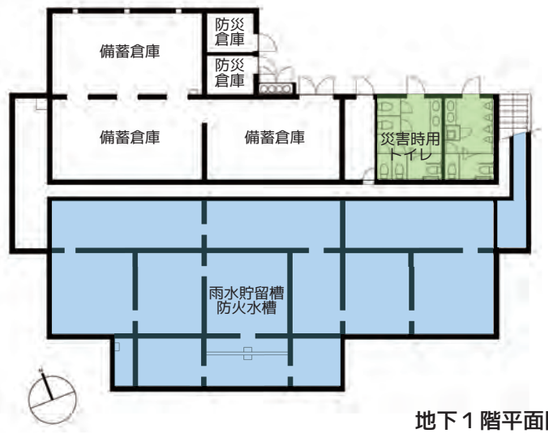
まちの縁側

丘の上テラスはまちの縁側となる施設です。集会室などの利用だけでなく、どなたでも気軽に立ち寄り、語らったり、読書をしたり、自由に時間を過ごすことができる施設です。また、災害時には地域の皆さんのよりどころとなります。



ＰＨ階平面図

１階平面図



地下１階平面図

断面図

テラス

大きなひさしの下の空間です。公園を眺めながら腰かけ、夏は涼み、冬は日向ぼっこの場となります。「まちの縁側」を象徴する場所です。

エントランスホール

施設に集う人々のための場所です。お茶やコーヒーを飲んだり、展示なども行うことができます。

集会室・防音室

一体でも使える２つの集会室と簡易的な防音設備のある防音室です。利用内容に応じて使い分けることができます。一般貸し出しを行っています。

給湯室

本格的な厨房機器を備えて、飲食の提供をすることもできます。プロパンガスなので、災害時には炊き出し拠点とすることができます。

トイレ・災害時用トイレ

地下に溜めた雨水を、太陽光発電の電気でくみ上げて使っています。地下１階のトイレは、災害時などに開放され、利用することができます。

備蓄倉庫・防災倉庫

備蓄倉庫には区の備蓄物資が入っています。防災倉庫には地元町会の応急資機材が入っています。

雨水貯留槽・防火水槽

地下には雨水を160ｔ貯水しています。普段のトイレや公園の散水に利用でき、また災害時には災害時用トイレで使われます。雨水とは別に100ｔの消防用水槽が設置され、消防活動に利用されます。

太陽光発電

屋根のソーラーパネルで発電した電気を蓄電し、災害時の照明や携帯電話の充電に利用できます。電気の一部は、平常時の夜間照明などに使っています。